

2009年におけるノルトライン・ヴェストファーレン州内の犯罪情勢

1. ノルトライン・ヴェストファーレン州（NRW州）及びデュッセルドルフ市（D市） 犯罪統計（主な数値）

- ①犯罪発生総件数
 - NRW州：1,458,438（前年比プラス0.4%）
 - D市：79,864（前年比プラス7.4%）
- ②10万人当たりの犯罪発生件数
 - NRW州：8,133（前年比プラス0.7%）
 - D市：13,670（前年比プラス6.8%）
- ③検挙率
 - NRW州：50.8%（前年比プラス1.5%）
 - D市：48.8%（前年比プラス4.7%）
- ④窃盗発生件数
 - NRW州：637,148（前年比マイナス3.8%）
 - D市：37,422（前年比マイナス2.7%）
- ⑤強盗（ひったくりや恐喝を含む）発生件数
 - NRW州：14,330（前年比プラス1.2%）
 - D市：1,806（前年比マイナス0.1%）
- ⑥麻薬犯罪発生件数
 - NRW州：52,723（前年比マイナス7.1%）
 - D市：3,406（前年比マイナス1.0%）
- ⑦性犯罪発生件数
 - NRW州：10,435（前年比マイナス12.0%）
 - D市：455（前年比マイナス6.0%）

2. 犯罪統計発表時のコメント

（1）NRW州

○ 高い検挙率 殺人と窃盗が減少

殺人が明らかに減少、暴力行為は横ばい、窃盗は減少、注目すべき検挙率の向上、これらが2009年の特徴である。

1. ヴォルフ内務大臣によると、犯罪対策における質の向上、保全プログラム及び良質な警察の仕事が功を奏し、NRW州における治安水準がこの数年高くなっているのに非常に貢献している。

2009年の犯罪発生総件数は1,458,438件（+0.4%）で前年同様。検挙率は50.8%で前年比1.5%アップ、1963年以来の高い検挙率。

○ 青少年による犯罪が減少

21歳未満で犯罪を繰り返す青少年の数は、ここ10年で最低の7,954人（1.7%=135人減）。この数は、未成年年齢層の0.3%を占める。犯行を繰り返す犯罪者は、1年間に5件以上の犯行を行う。2005年との比較では、11.1%（993人）減。

この数年に警察が開発したプロジェクトやコンセプトによる成果が見られる。一方では青少年犯罪者の犯罪キャリアの道を断ち、他方では青少年が悪の道に走るのを防ぐ事に成功している。地域社会、法的機関、学校との協力体制により、地域の責任者が定期的に会合を持ち、問題を解決している。州政府が協力体制の基礎を構築したのは正解であった。

このような手段によってのみ、青少年犯罪に対する効果的な対策が可能となる。

21歳未満の容疑者数は136,501人。前年比2.6% (=3,637人) 減。21,708人は暴行、窃盗、傷害容疑。これは青少年全体の0.85%に当たる。青少年の多くは法律を遵守しており、少数の常習犯のみが問題となっている。

○ 暴行犯罪抑止の流れ 犯罪数は前年レベルに留まる

2008年を契機として暴行犯罪の増加に歯止めがかかった。犯罪数は52,451件(77件あるいは0.2%増)。警察は暴行犯罪には特に敏感に反応する。検挙率は相変わらず高く72.5%。容疑者の86.4%は男性。暴力犯罪対策は、社会的にも犯罪抑止における重要な課題である。関心を持つ文化と、非暴力の教育も重要である。社会の中で敗者であるとフラストレーションを感じる若者を減らすことを目指す。

強盗(当館注:恐喝やひったくりを含む。)犯罪は、14,330件で173件(=1.2%)増。2件に1件は解決。被害総額は1,700万ユーロ。21歳未満の容疑者数は55.3%(-0.8%)。21歳未満の強盗被害者の割合は35%。

青少年の強盗と恐喝の問題は深刻である。携帯電話、現金、MP3プレーヤー等が狙われやすい。このような犯罪はとるに足りない事と思込み、重犯罪であるという認識がない場合も多々見られ、これらの犯罪によって人生が破壊される事もあると認識させることが重要である。その為に警察は、犯罪の摘発のみではなく、抑止に力を入れ、学校、地域社会、民間協会等と協力している。

○ 殺人が明らかに減少 94%の検挙率

2009年の殺人被害者は99人。2008年との比較では17人(=15%)、2005年との比較では39人(=28%)減。殺人未遂は260件。犯人(未遂を含む)の94%は検挙。殺人被害に遭う可能性は、1950年からの50年間と比較して激減している。(1970年は641件、1980年は620件、1990年は503件発生。)

○ その他の路上での犯罪の減少

昨年の路上犯罪の件数は13,240件(=3.1%)減で、408,672件。警察は徒歩と自転車によるパトロールを強化。これが効果を上げており、住民の安心感を高める上でも効果的である。

○ 重大かつ危険な傷害犯罪の減少

重大かつ危険な傷害犯罪数は146件(0.4%)減の36,005件で、2年続けての減少。検挙率は81%。45,510名の容疑者の内、3人に1人(13,838名)はアルコールの影響が認められ、男性容疑者の割合が85%。故意の軽微傷害犯罪は2,887件(=3.6%)増の82,932件。市民の関心は高まっており、協力的であり、オンラインで連絡できることもあり、被害届も増加している。

○ 窃盗は劇的に減少

窃盗は3.8%(24,834件)減少で637,148件。重大な窃盗犯罪は激減して6.3%減の22,243件で2009年も減少傾向が続行。証拠が少ないながら、警察は4件に1件は検挙している。

○ 住居侵入

住人の意識の高まりに伴い、住居侵入未遂の件数が増えている。昨年は16,086件で、2008年より1,235件(=8.3%)増。警察による中立的な立場からの無料のアドバイスを受けることも可能。住居侵入の被害届数は25,029件で昨年比1,878件(=8.1%)増。

○ 車両盗難は1949年以来の最低件数、車上狙いも激減

2009年の車両盗難は7,570件で、昨年比マイナス610件(=7.5%)の激減。盗難防止のためのアラームや鍵の技術向上と警察の努力が効果を上げている。

車上狙いは86,667件で昨年比マイナス14,997件(-14.8%)の激減。最高件数を記録した1990年と比較すると61.2%減。防止には車上に物を置いておかないことが肝心。

○ 盗難カードによる詐欺事件は「KUNO」システムの導入が成功

「KUNO」システムの導入により、盗難ECカードやクレジットカードによる詐欺事件は大

幅に減少し、2,938 件で昨年比 1,000 件 (-25%) 減。

被害届の提出後すぐに警察から各店舗にメールが発信される。犯人がカードを使用しようとしても既に無効処理がされている。

○ インターネットとコンピューター犯罪

2009 年のインターネット犯罪は、54,881 件であった。犯罪全体の 3.8%。87%がオークション等の詐欺犯罪で、古典的犯罪からの移行の傾向がみられる。ひとつの捜査の中で、7,100 件の被害が明らかになった例も。検挙率は 77.3%。警察は消費者にセキュリティシステムの利用を勧める。

将来的にこの種犯罪の増加が予測され、知識のある捜査人員が必要となる。古典的犯罪と異なり、犯罪場所が特定されず、国際的な犯罪が多く、加害者と被害者の間に以前の関係がない。NRW 州の高い検挙率は、技術的、人的に優秀であることを示す。

○ 性犯罪は周囲の人間が加害者であることが多い

2009 年の性犯罪は前年比 1,426 件 (=12%) 減の 10,435 件。内、強姦等の重犯罪が 1,726 件。検挙率 80%。顔見知りや家族や親戚の犯行が多い。

○ ストーカー、高い解決率

7,659 件のストーカー犯罪の内、88.3%が解決した。高い検挙率は、ドイツ警察が一貫してストーカー犯罪に立ち向かっていることを示す。警察では、被害者に対してサポート組織の紹介等、研修を受けた警察官が対応をする。

※ 原文

http://www.polizei-nrw.de/im/Zahlen_und_Fakten/kriminalstatistik/

(2) D市 (シェンケルベルグ警察本部長)

2009 年は、デュッセルドルフ警察においては平和ではなかった。出動件数が 290,000 件、デモが 473 件、市外への特別出動も少なくなかった。

シュヴァルムタールの事件 (訳注: 強制執行により娘の家が差し押さえられる事になった年金生活の父親が、弁護士 1 名と不動産鑑定者 2 名が訪問したのを射殺、自身は家に立てこもった事件。) や、解明が困難で捜査が長引いたメットマン市の「カッサンドラ」事件 (訳注: 行方不明となった 9 歳女兒が瀕死の重傷で下水道で発見された事件。犯人は 14 歳の知的障害者。一連の児童に対する性的虐待との関連の憶測もあった。) はご記憶に新しいことと思う。

加えてアルトシュタットやサッカー試合時の保安、危険地区のパトロール等に力を入れた。これらの出動には人員と労力が必要となるが、市内の犯罪に効果的に対抗できた。

市民対象の防犯セミナーの開催は 3,000 回を超え、未遂で終わった侵入犯罪も多く、この点に関しては後に述べたい。

市民の誰もが遭遇する可能性があり、それ故に警察も重点を置く窃盗犯罪に対する、実務上の捜査戦略も効果を上げている。

街頭犯罪においては、特に車上狙いとスリに関して我々の努力の結果が実っている。これは我々のコンセプトが間違っていないことを示す。車上狙い特捜チーム「EK-Kfz」等の専門家が集中的に犯罪に対抗し、犯罪を本部で管理し、制服警察官を危険地区に配置して積極的に対抗している。

プレスリリースでも取り上げ、解明に成功した案件につき、ここで言及したい。

2009 年秋に、タクシーを狙って強盗を重ねてきた、デュッセルドルフ西地域の 7 名の犯罪グループを摘発した。これにより 13 件の事件が解明した。

2009 年 11 月には、車のディーラーの展示車両等からエアバッグ専門の窃盗を重ねた、37 歳のポーランド人を逮捕した。捜査の第一段階で、58 個のエアバッグをトランクに隠していた犯人の車両を押収した。

車上狙い専門の EK-Kfz 捜査チームは、関連した闇市捜査にも、100%の検挙率で成果を

上げた。闇市の摘発が、車上狙い減少につながる。

私個人が特に力を入れている青少年犯罪に関しても、イエローカードプログラムの成果が既に上がっている。2006 年以來、316 名の青少年をプログラムに入れた。これは青少年の常習犯に更生の機会を与えるためのプログラム。特別な対策を講じない限り、青少年犯罪者の約半数がその後も犯行を繰り返すことが経験からわかっている。

イエローカードプログラムに参加した 316 名の青少年の内、224 名はその後、犯罪に関わっていない。これは成功と言え、今後も同プログラムの継続を予定している。

協議会でも取り上げ指導を行ってきた 34 名の青少年常習犯人の内、9 名は再び犯行を繰り返し、12 名は更生した。

協議会には非常な労力と時間を要するが、青少年常習犯が 1 人でも更生すれば、その意義は大きい。継続の予定である。

犯罪発生総件数の 7%上昇等、2009 年の良くない展開に関しても隠すつもりはない。これらは後ほど、シュナイダー刑事部長からの説明がある。

侵入犯罪は 304 件増加した。プライベート空間が侵害される事による被害者の心理的負担は大きい。

この点に関して説明したい。

デュッセルドルフ警察においては、過去数年にわたり犯罪対策のコンセプトを確立し、犯罪の減少に貢献してきたが、今また 2004 年頃のレベル、つまり州内の他都市と同レベルに戻ろうとしている。

州内全体でも住居侵入は 8%増加しており、デュッセルドルフ市のみの問題ではないことがわかる。

2,254 件の内、4 割にあたる 900 件は未遂で終わった。以下の点からみても、この意義は大きい。

- 被害者の心理的負担が少ない。
- 防犯効果が上がっている。

他方、防犯技術の向上により、件数が増加しているのも否めない。犯行が未遂に終わった犯人は必ず次の犯行に及ぶからである。

今後も、住居侵入には十分な注意を払うよう、市民に呼びかけたい。我々は今後も住居侵入犯罪対策を怠らず、組織的対策等を通して件数の減少に努めていく。市民の犯罪予防意識を高めるべく、犯罪に関する情報発信のためにメディアの協力を求めていく意向である。

傷害事件、とりわけ軽微な傷害事件は約 400 件の増加を見せている。警察も以前から把握している通り、話し合いによる平和的解決ができず、すぐに暴力に走る傾向が見られる。

我々の、犯罪の全体像を把握し、対抗していく努力が正しいと信じている。優れたコンセプトを通じて、ネットワークを活用し、犯罪を早期に察知して子供や青少年に良い影響を及ぼすことによつてのみ、継続的な治安が実現される。

※ 原文

<http://www.polizei-nrw.de/duesseldorf/Start/article/kriminalstatistik-2009.html>

3. 総領事館からの特記事項

(1) 在留邦人の皆様の関心が高い犯罪の発生・検挙状況

(イ) 窃盗犯全体では NRW 州、D 市ともに減少傾向にあります。このうち、在留邦人の皆様からの関心が特に高い「空き巣狙い」（家人の不在を狙って家屋に侵入する窃盗手口）の発生・検挙状況は以下の通りです。

○ NRW 州： 41,115（前年比プラス 8.2%）（検挙率 14.4%＝前年比－1.8%）

○ D 市： 2,254（前年比プラス 15.6%）（検挙率 11.1%＝前年比－2.5%）

2009 年の発生は D 市のみならず NRW 州全体でも急増しました。

D市内では2年続けて2桁の増加率ですが、シェンケルベルグ本部長がコメントしているように、防犯技術が高まることで未遂割合が高くなったことにより、一時的に被害件数が増加する（こじ開けようと思っても開かないドアが増えたため、犯人としては金品を奪取するために、より多くのドアをこじ開けなければならない）というのも事実であり、今後、当該防犯対策が徹底されれば、空き巣狙いの犯罪者もあきらめ、最終的には発生件数は落ちるという見方です。

検挙率はNRW州、D市ともに落ち、10%台前半から中盤です。残念ながら、被害に遭うと、検挙や被害回復に至るケースが少ないことから、被害に遭わないために可能な限りの対策を講じる必要があると言えます。玄関ドアや窓（一般に日本式2階までは窓の強化が必要と言われています）について、再点検されることをお奨めいたします。

(ロ) 「車上狙い」(自動車内部の金品を奪う接入手口)についても邦人の方からの被害連絡を受けることが少なくありませんが、発生状況等は以下のとおりです。

○ NRW州： 86,667 (前年比マイナス14.8%) (検挙率11.5%=前年比+2.6%)

○ D市： 6,684 (前年比マイナス18.5%) (検挙率12.1%=前年比±0%)

D市においては、2007年の検挙率が3.7%でしたが、車上狙いに対する継続的かつ徹底的な検挙取組みが功を奏し、検挙率が上がるとともに、その抑止効果が働いて大幅な発生減少が実現しているようです。また、車上狙いの主な被害物品であるカーナビについても、例えば据付け式カーナビであれば、車を離れる時には取り外して外から見えないようにしておく(カーナビが取り付けられていた痕跡もできるだけ残さない)といった個人個人の意識の高まりが、大きな発生減少につながっているとのこと。

とはいえ、いまだに検挙率は大変低い状況です。空き巣同様、被害に遭ってしまうとなかなか事件解決が困難な犯罪であり、引き続き、個人個人の高い防犯意識が必要です。

(2) 日本との比較

(イ) 犯罪発生総件数

日本とドイツでは、刑法で定められている犯罪の種類や構成要件、犯罪統計で計上する犯罪の種類が完全に同一ではありません。ですから、本来、数値を単純に比較するのは精緻とは言えないのですが、大まかな目安にはなるので、あえて比較してみました。

○ 日本全体： 1,703,044件…人口約12,700万人

○ 東京都： 205,708件…人口約1,300万人

○ NRW州： 1,458,438件…人口約1,800万人

○ D市： 79,684件…人口約60万人

在留邦人の皆様の中には、「ドイツ(NRW州またはD市)の方が何となく平穏な感じで、日本の方が犯罪被害に巻き込まれる可能性が高いのではないか?」と感じている方がいらっしゃるかもしれません。しかし、犯罪発生総件数と人口を見比べていただければ、いかにNRW州やD市において犯罪が多発しているかがおわかりかと思えます。もちろん、これは犯罪発生総件数での比較だけですから、凶悪犯罪であればどうか?子どもが犯罪に遭う可能性ではどうか?という犯罪の質から比較する必要もあろうかと思えますが、少なくとも、日本より当地の方が、身近なところで犯罪に巻き込まれる可能性が格段に高いということをご認識しておいていただきたいと思えます。

(ロ) 空き巣狙いや車上狙いの検挙率

2009年の日本全体での空き巣狙いの検挙率は58.2%、車上狙いの検挙率は

26.9%であり、NRW州やD市と比較して相対的に相当高い状況です。当地にあつては、それだけ取り締まるのが困難な犯罪です。日本で生活している時でも、これら被害に遭わないために十分な対策を講じる必要がありますが、当地では、それ以上に高い意識を持って対策を講じる必要があります。

4. お願い

(1) 在留届におけるメールアドレスの記入

総領事館では、緊急事態発生時、在留届に記載されたメールアドレスに緊急一斉メールを配信しています（INSIDEシステム）。在留届の提出の際にはメールアドレスの記入漏れのないように、また、メールアドレスの追加・変更がある場合は総領事館宛てにご連絡くださるよう、お願い致します。

(2) メールマガジンの登録

上記(1)の緊急時のみならず、随時、総領事館から在留邦人、旅行者・出張者等の皆様に対して役立つ情報をご提供させていただいております。ご希望される方は、以下のアドレスからお申込み願います。

http://www.dus.emb-japan.go.jp/profile/japanisch/j_konsular/j_mail_magazin.htm

(3) 犯罪に関する情報提供・連絡

これまで総領事館では、犯罪被害等に関して数多くの情報をいただき、場合によっては本メール等でご紹介させていただいております。今後も、何らかの犯罪に関する情報をお持ちの方は当館宛にご連絡いただければ幸いです。

konsul@jgk-dus.de